

六郷を探る会

～沖野地区～



六郷市民センター
平成 16 年 9 月 15 日

六 郷 を 探 る 会

《 沖 野 地 区 》

沖野地区は広瀬川の北岸に位置する。地名は平野で遠く開けた土地（肥沃で農作に適している）から名付けられたと思われ、奈良朝時代には条里制という土地制度がしかれていた所であり、洞円寺、二の坪、三の坪等の旧地名が確認できる。

1 ようりゅうざん 楊柳山 せいりょうじ 清凉寺（曹洞宗） 若林区沖野七丁目 4 3 - 6 0 （旧沖野字館 1 1 0）



元亀二年（1571）仙台城下、龍川院明屋梵察の開山で御本尊は釈迦如来である。



○ 観音堂

御本尊の聖観音と三十三観音が同座している。仙台市穀町高田屋久兵衛の寄進。年代は不明である。古くは仙台三十三観音第29番札所であった。（現在の第29番札所は今泉の祐善寺観音堂である。）

御詠歌 もうでくる人につけても たてのなの

ありしむかしぞ おもひやらるれ

○ 石碑・石仏・その他



- ① 吉田流算術丹野村清之碑
(慶応三年(1867)建立 和算家 70才没)
- ② 関流算術丹野清晴之碑
(明治十三年(1880)建立 和算家 75才没)
- ③ 丹野保五郎頌徳碑
(昭和九年(1934)建立)
※ 飯田尋常小学校初代校長、種次尋常小学校初代校長、
飯田小学校初代校長歴任
- ④ 丹野善右ヱ門の墓碑
(政宗に仕え功績があった人で、丹野久作家に寛永十九年(1642)
銘の位牌があり「沖八軒」のうちの一家であると言われている。)

★ おき おきの はちけん
沖 (沖野) 八軒

江戸時代の初めに、沖野に八軒の家が移り住み生活を始めたと言われる。(多くは山形県から来たといわれるが定かではない。) 舘地区の旧家丹野家4軒、佐藤家3軒、木皿家1軒と言われており、ほぼ現存している。

- ⑤ こそだて 子育地蔵 (紀年不明)

- ⑥ 楊柳観音（紀年不明） 病難消除することを本誓とする観音である。
- ⑦ 門前の六地藏は今年安置されたもので、秋保の石神地区で制作活動されている方の作品である。
- ⑧ 江戸・明治年代に何度か火災にあい、過去帳など諸記録を焼失している。また昭和53年の宮城県沖地震でも被害をうけ、現在の建物は檀家さんの協力も得て、地震後再建されたものである。
- ⑨ 毎朝6時に六郷で唯一鳴る鐘の音は、当寺御住職のお勤めの鐘の音である。
- ⑩ 境内のすばらしさは、御住職自らの庭木の手入れ、掃除をされている賜です。

2 沖野城跡 若林区沖野七丁目付近

中世末、広瀬川右岸を領していた国分氏の家臣栗野氏の出城が在った所で、その広さは四方100間（180メートル四方）といわれている。現在、佐藤守行氏宅と丹野久作氏宅に土塁が遺構として現存している。



（佐藤守行氏宅）



（丹野久作氏宅）

3 沖野八幡神社 若林区沖野三丁目16-33 (旧沖野字中柵27)



○ 沿革

文治三年（1187）栗野大膳が西館（沖野館）を築くにあたり、家運長久の守護神として館内に勧請した。その後火災にあった時、ご神体が飛んで現在の地に遷ったので、ここに奉祀するようになったと言われる。

明治5年（1872）旧沖野村の村社に列格、明治22年（1889）旧六郷村社になる。また昭和11年 神明社（沖野字無尻橋、現沖野六丁目付近）を合祀した。摂社に古峯神社がある。祭神は天照皇大神と応神天皇である。

○ 例祭日 4月15日、旧8月15日

○ 建物

旧郷倉は昭和16年建設、同53年宮城県沖地震で倒壊し、同56年建替えられた。（恩賜郷倉と言われていた。）

★ 「おんしごうそう恩賜郷倉」

昭和9年12月18日内務省訓令により昭和13年頃までに、各地区に六坪ほどの本瓦葺き倉庫一棟ずつが建設された。天災や飢饉に備え、穀物（主にモミなど）を備蓄している倉庫のこと。菊の御紋章が確認できる。（下飯田、藤塚に現存している）

○ 梵鐘

天明元年（1781）銘 ・ 法量 高さ105cm×直径60cm

○ 和算の^{さんかく}算額

和算家の丹野清晴が慶応三年（1867）に奉納したもので、幾何学に属する問題四題を解いたものである。

★ 「^{さんかく}算額」

和算家が自己の発見した数学の問題や解法を書いて奉納した絵馬、額面題のこと。

○ 白馬像

神殿に向かう両脇に、宝暦五年（1755）4月15日銘の狛犬が出迎えてくれる。その右手脇の高い台座の上に、白馬像が奉納されている。

沖野八幡宮廣前

御馬像奉納人 仙台市新河原町 菅井竹太郎

全臺石壹字 當村氏子壺同

発起人 佐藤貞治

昭和八年十一月十五日

御馬像謹製人 岩手県二戸郡奥中山 佐藤佐市郎

銅板寄贈人 仙台 高喜金物店

○ 石碑

① 庚申塔 享保十九年（1734）

② 庚申 己巳塔 寛政四年（1792）

③ 湯殿山 万延 元年（1860）

★「肝入 丹野三郎次 六十七翁」の刻字を確認できる。

④ 湯殿山 安永 八年（1779）

⑤ 山神 嘉永 六年（1853）

⑥ 小牛田山神 文化 八年（1811）

⑦ 名号塔 貞享 二年（1685）



4 湯殿山碑 若林区沖野三丁目路傍（旧沖野字中柵西 通称三枚橋）

出羽三山の民間信仰における中心は湯殿山である。巨岩より湧き出す霊湯に神威を感じたものか、五穀豊穰に特に御利益があると言われているからか、三山のうちで庶民が最も崇敬している山である。三山の信仰集団（講集団）は普通、地域ごとに組織されており、毎年くじびき等でその年の参詣者（代参者）を決め、出発に当たっては鎮守に参拝し道中の無事を祈願し、帰村したときもまた御礼参りをした。講中（講集団）が参拝記念に造立したのがこの碑です。また設置場所は、屋敷の土地が三角形で良くないと言われ気になっていた農家の方が、土地の一角を削ることで場所提供を申し出て、この地に建立されたとの事です。



法量・・・322cm×106cm

碑面に確認できる文字

- 明治十年（1877）
建立年である。
- 南 二木 井戸濱
西 仙臺
北 小泉村・・・道標を意味する
- 世話人 井土濱 大友幸四郎
當村 丹野五三郎
荒町 伊藤七十郎
他18名
- 龍泉杜多文明書
- ^{いないいしく}井内石工 松下文治

★ 「井内石」^{いないいし}

石巻市稲内^{いない}で産出される石で、主に板碑、石碑などに使われている。

5 ^{さんまいばし}三枚橋（通称さんめばし） 若林区 沖野三丁目付近（旧沖野字中柵西付近）

公団沖野団地を過ぎ、セブンイレブンの道路向かい側の細い路地を進むと、Y字路にぶつかる。この辺りが三枚橋と言われていた所である。中河原方面に向かう土橋（丸太の上に柴木を乗せ土をかぶせた橋）で日辺堀、中堀、沖野堀の三本の堀にかかっていた。現在は道路も整備され三本の堀のみが確認できる。



日辺堀



中堀



沖野堀

その他の資料

○ かつてあった旧家の屋号

^{こうや}高野、^{きたこうや}北高野、^{なかだて}中館、^{さわだ}沢田、^{すなおし}砂押、^{きたもん}北門、^{むじりばし}無尻橋、^{ようがい}要害、^{とおにし}遠西 などの

小字名などが屋号として使われていた。現在では区画整理・住居表示変更により確認はむずかしい。

○ 住居表示（昭和 61 年 7 月 7 日実施）変更による、小字、大字の区分

沖野一丁目＝神柵 新神柵 館西 南小泉三ノ坪 二ノ坪 古城東

二丁目＝神柵の一部 新神柵の一部 館西の一部 中柵西の一部
南小泉六郷堀

三丁目＝河原の一部 河原上の一部 河原越の一部 河原中の一部
砂押の一部 中柵の一部 中柵西の一部 中柵東の一部
七町の一部

四丁目＝河原の一部 河原中の一部 中河原の一部

五丁目＝河原の一部 河原上の一部 河原中の一部 砂押の一部
上飯田遠西の一部

六丁目＝横堀 河原越 河原下 館南 中柵の一部 七町の一部
上飯田遠西の一部 南小泉五ッ谷二番 南小泉御休場南

七丁目＝木門 館 館西の一部 館南の一部 中柵の一部 中柵東
の一部 南小泉御休場南の一部 南小泉中河原 南小泉広
瀬川橋下

○ その他の地名、遺跡

かみさくい せき
神柵遺跡

現沖野二丁目付近。「かみやらい」とも言われていた。

「柵」とは木の柱を建て並べて、敵を防ぐ為に作った砦のことで、本城を守るところであったと思われる。この遺跡からの出土品（土師器土器 1 点、須恵器土器 5 点）は平安時代のもので、現在仙台市教育委員会にて所蔵している。

ようがい
要害

現沖野六丁目付近。「とりで」の意の如く沖野城の「砦」のあったところと思われる。

きたもん
北門

現沖野七丁目付近で沖野城の門の名残。天正十九年(1591)に栗野大膳が伊達政宗に敗れた時、栗野氏門下の婦女子が密かにこの門から逃げていったとか・・・。

おおてもんあと
大手門跡

現沖野七丁目付近。かつて大手門があったであろうと思われるところである。

むじりばし
無尻橋

現沖野六丁目付近。灌漑用の水路をつくり水田に水を引くが、川下は田の中に分散して水路がなくなってしまう川（無尻川）に橋があったところ。

どうえんじ
洞円寺

現沖野一丁目の東北電力南営業所あたり。昔寺があったと思われる。

さんのつば
三ノ坪

坪とは封建時代に条里制がしかれた時の一区画を指す。
条里制とは、一里を三十六等分し、一つの小さい桝目が 1.66 反歩で、六つの坪を一町歩とし、六町歩が里となり、西から

東に条となる。農地をこのように区切り、国が農民に貸し与えて、農地から租税をとりたてる為に坪割りをした名残である。

たて
館

現沖野七丁目付近。室町時代に栗野氏の出城のあったところから館と称された。

さかい
境

現沖野南田中付近。昭和16年仙台市に合併されるまでは、名取郡と宮城郡との堀一本隔てた郡境だった。

参考資料

広辞苑（岩波書店）
日本石仏事典（庚申懇話会編）
宮城県地名大辞典（角川書店）
仙台の石仏散歩（木村孝文著）
若林の散歩手帳（木村孝文著）
沖野かいわいこぼれ話（丹野實著）
沖野の蔵さがし（仙台市沖野市民センター）
「六郷を探る会」記録集（仙台市六郷市民センター）

「六郷を探る会・沖野地区」

編集 「六郷を探る会」編集委員（五十音順）
小田島 政雄・桜庭 哲朗
佐竹 清造・庄司 壽夫
西大立目 祥子・平間 和子
若生 昭弘（六郷市民センター館長）
石垣 祐子（六郷市民センター）
発行 仙台市六郷市民センター
若林区今泉一丁目3-19
TEL 022（289）5127
FAX 022（289）6359
2004年（平成16年）9月15日